



▲2010年皐月賞(G1)

世界に挑んだ 優駿たち

— Vol.4 —

▼2011年ドバイ・ワールドC(G1)



永遠に語り継がれる輝かしい1勝 ヴィクトワールピサ

2011年の春。3月11日に東日本を襲った未曾有の大震災に沈む日本を元気づけるように、遠く中東から吉報が届けられた。前年のグランプリホース、ヴィクトワールピサが世界最高峰レースの一つであるドバイ・ワールドCを制したのだ。手綱をとったミルコ・デムーロ騎手が馬上で日の丸を掲げて感涙にむせんだシーンは、テレビ中継を通じてその様子を観ていた多くの競馬ファンの心を揺り動かした。

ヴィクトワールピサのデビューは2歳の10月。新馬戦はローズキングダムに屈して2着に敗れたが、次の未勝利戦を圧勝すると一気に本格化。オープンの京都2歳S、重賞初挑戦となったラジオNIKKEI杯2歳Sも制して、クラシック戦線に名乗りを上げた。

年が明けて3歳になっても、この快進撃は止まらない。トライアルの弥生賞も快勝して皐月賞に臨むと、道中は後方を進み、3コーナー手前から徐々に進出。直線で一気に先行集団を飲み込んで突き抜けると、2着に1馬身半の差を付けてGIタイトルを奪取した。

続く日本ダービーはエイシンフラッシュの3着に敗れたが、その後は初の海外遠征となるフランスへと向かい、ニエル賞(G2)で4着、凱旋門賞(G1)で7着という成績を残して帰国した。その後、ジャパンカップの3着を経て出走した有馬記念では、ブエナビスタの猛追をハナ差抑えて優勝。同年のJRA賞で最優秀3歳牡馬に選出されている。

二度目の海外遠征、ドバイへと向かったのは翌年3月だった。ステップ

とした中山記念を勝つと、ブエナビスタ、トランセンドとともにドバイ・ワールドCに参戦。前年から同レースは「タベタ」と呼ばれる、パワーに加えスピードも要求されるオールウェザーコースでの開催となっており、芝で戦ってきたヴィクトワールピサにはこれも味方した。レースの前半は後方に位置したが、向正面で一気に位置を上げると、逃げるトランセンドと並ぶようにして直線へ向いた。ここからは日本馬2頭の激しい叩き合いとなったが、ヴィクトワールピサが最後に半馬身抜け出して勝利。凱旋門賞と並び、日本馬にとっての大目標となってきたビッグレースをついに制した瞬間だった。

ドバイから転戦した香港で、また秋に再度渡ったフランスでも出走を回避するなど、その後の競走生活は順調にいかなかったが、中東での輝かしい1勝をもってして、彼の名は日本の競馬史に深く永遠に刻まれるだけの大きな価値を持っている。

全成績		中央12戦7勝				海外3戦1勝	
年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手	
2009. 10. 25	京都	メイクデビュー京都	1800	2	1:49.0	武 豊	
11. 7	京都	2歳未勝利	2000	1	2:01.8	武 豊	
11. 28	京都	京都2歳S	2000	1	2:01.6	武 豊	
12. 26	阪神	ラジオNIKKEI杯2歳S (JpnⅢ)	2000	1	2:01.3	武 豊	
2010. 3. 7	中山	報知杯弥生賞(GⅡ)	2000	1	2:06.1	武 豊	
4. 18	中山	皐月賞(GⅠ)	2000	1	2:00.8	岩田 康誠	
5. 30	東京	東京優駿(GⅠ)	2400	3	2:27.2	岩田 康誠	
9. 12	仏	ニエル賞(G2)	2400	4	—	武 豊	
10. 3	仏	凱旋門賞(GⅠ)	2400	7	—	武 豊	
11. 28	東京	ジャパンカップ(GⅠ)	2400	3	2:25.2	M.ギューヨン	
12. 26	中山	有馬記念(GⅠ)	2500	1	2:32.6	M.デムーロ	
2011. 2. 27	中山	中山記念(GⅡ)	1800	1	1:46.0	M.デムーロ	
3. 26	ドバイ	ドバイ・ワールドC(GⅠ)	全2000	1	2:05.9	M.デムーロ	
11. 27	東京	ジャパンカップ(GⅠ)	2400	13	2:25.8	M.デムーロ	
12. 25	中山	有馬記念(GⅠ)	2500	8	2:36.5	M.デムーロ	

※レース名は当時の表記による

ヴィクトワールピサ 牡 黒鹿毛 2007年3月31日生

調教師：角居勝彦 馬主：市川義美氏

父 ネオユニヴァース 2000 鹿	サンデーサイレンス	Halo
		Wishing Well
母 ホワイトウォーターアフェア 1993 栗	ポインテッドパス	Kris
		Silken Way
	Machiavellian	Mr. Prospector
		Coup de Folie
	Much Too Risky	Bustino
		Short Rations